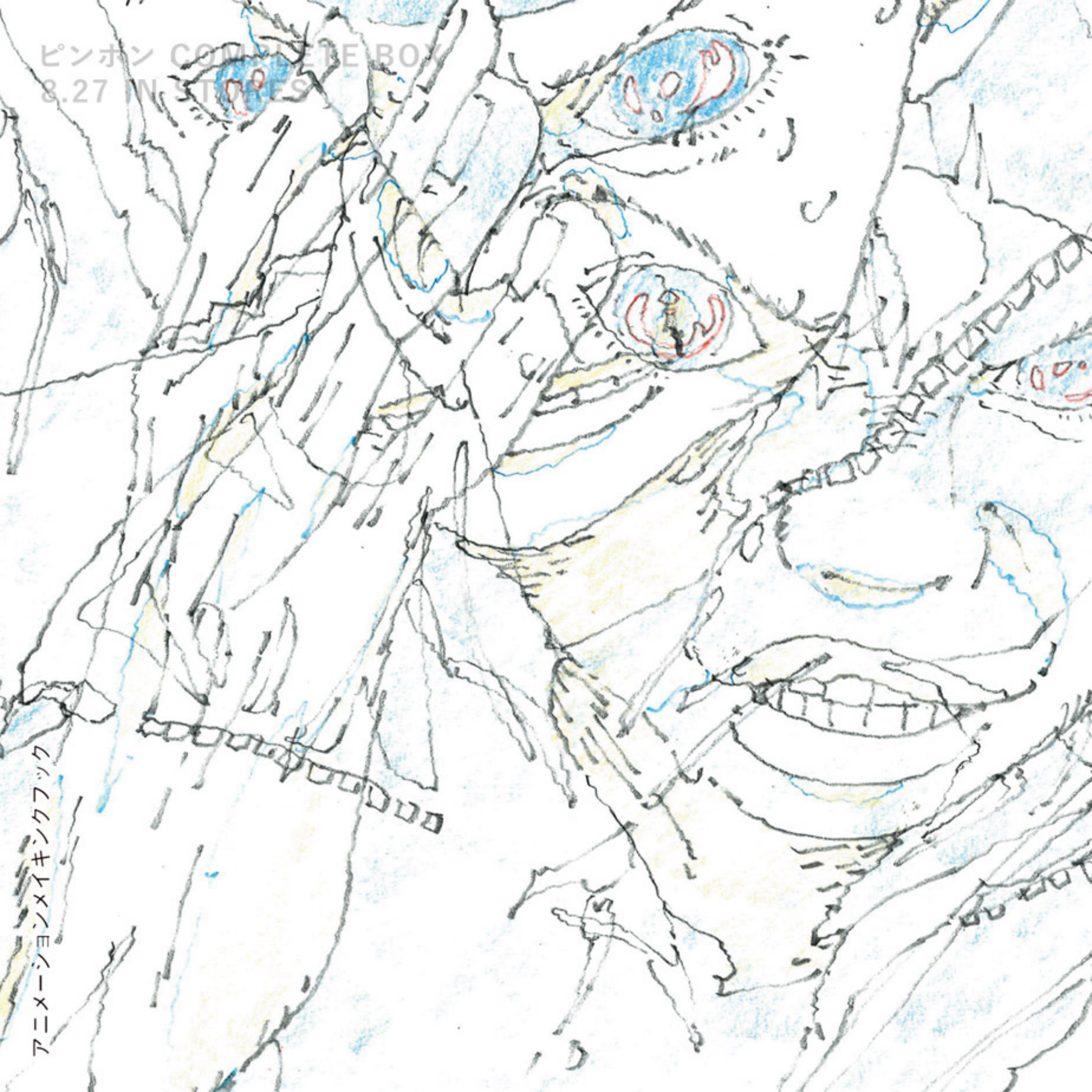


ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

アニメーションメイキングブック



ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

ピンポン THE ANIMATION COMPLETE BOX
アニメーションメイキングブック

INDEX

003	CHAPTER 01	登場人物
017	CHAPTER 02	各話解説
029	CHAPTER 03	卓球設定
047	CHAPTER 04	キャラクター設定／美術設定
085	CHAPTER 05	オープニング & エンディング
121	CHAPTER 06	キャスト／音楽
143	CHAPTER 07	特別寄稿

STAFF & CAST

〔原作〕松本大洋（小学館 ビッグスピリッツコミックス刊）

〔監督〕湯浅政明

〔キャラクターデザイン〕伊東伸高

〔音楽〕牛尾憲輔

〔色彩設計〕辻田邦夫

〔美術監督〕Aymeric Kevin

〔撮影監督〕中村俊介

〔編集〕木村佳史子

〔音響監督〕木村絵理子

〔制作〕タツノコプロ

〔ベコ／星野 裕〕片山福十郎

〔スマイル／月本 誠〕内山昂輝

〔ドラゴン／風間 竜一〕咲野俊介

〔アクマ／佐久間 学〕木村昴

〔チャイナ／孔 文革（コン・ウエンガ）〕文暉星

〔オババ〕野沢雅子

〔小泉丈〕屋良有作　ほか

〔オープニング・テーマ〕「唯一人」爆弾ジョニー（Ki/oon Music）

〔エンディング・テーマ〕「僕らについて」メレンゲ（Ki/oon Music）

ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

01

登場人物

> CHARACTER

加速するヒーロー。覚醒する才能。絶対勝利という孤独。勝利への努力と執念。取り返したい栄光。そして、彼らを取り巻く人生の轢。



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

この星の一等賞に
なりたいの俺は!

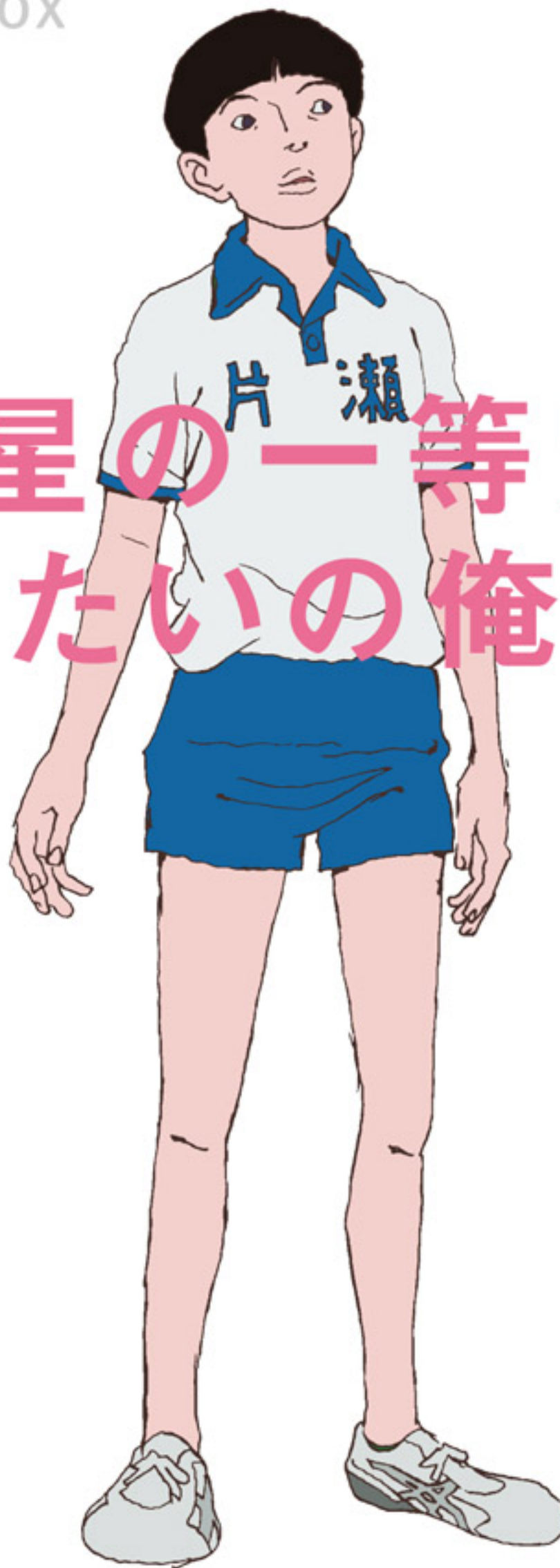
星野裕 ★ ペコ

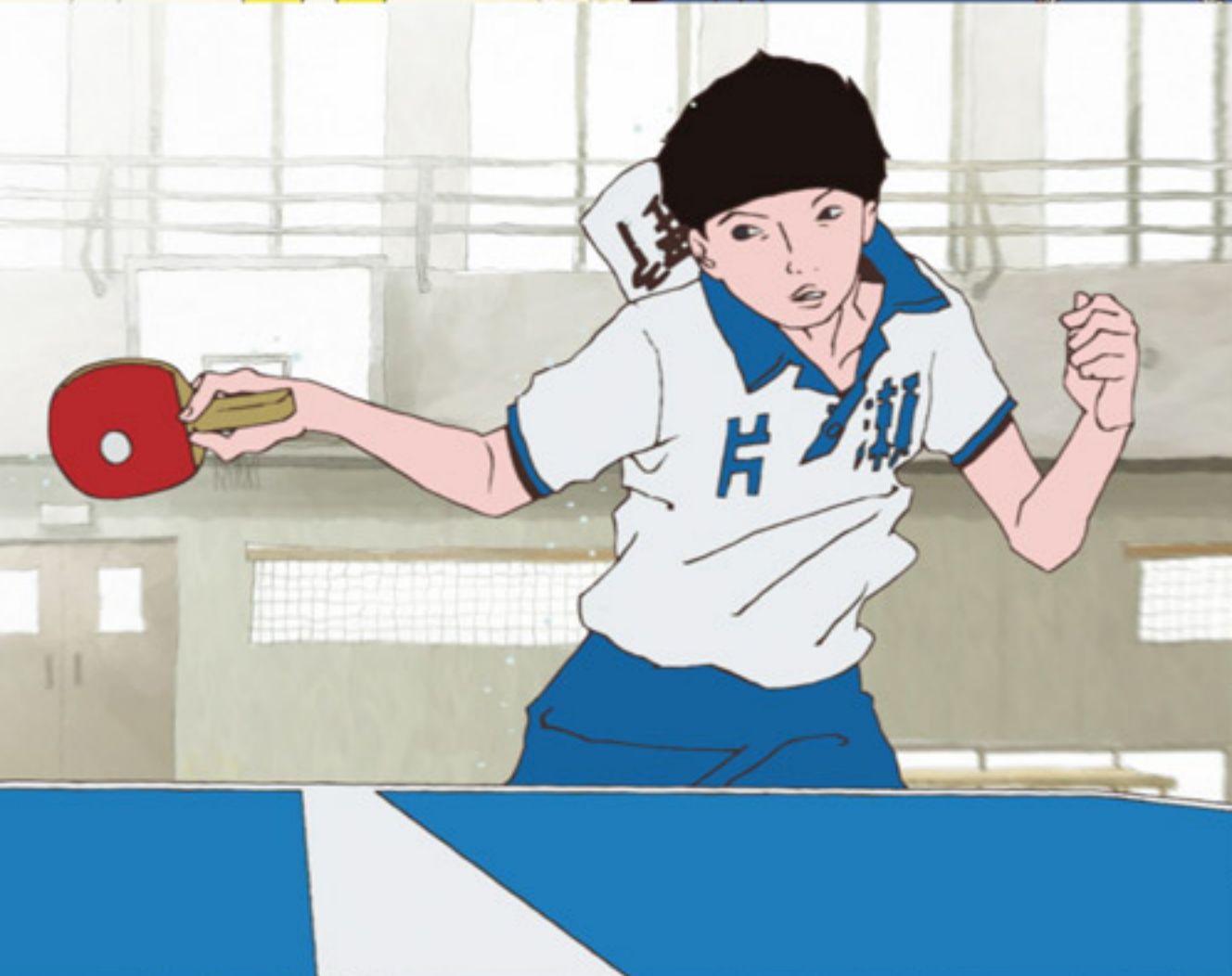
CV: 片山福十郎

使用ラケット: 右ペンホルダー

戦型: 前陣速攻

片瀬高校1年生。子どもの頃から、幼なじみのスマイルやアクマと卓球道場タムラで卓球をやってきた。当時から強くかなりの自信家。片瀬高校に進学後は、卓球部の練習を時々さぼって、タムラで挑戦してくる一般人をカモにしていることもある。1年目のインターハイ予選で、海王に進学したアクマに敗れ、さらにそのアクマがスマイルに負ける姿を見たことで卓球から離れてしまうが……。お菓子大好きで、いつもお菓子についてあれこれ語りながら食べている。







ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

ヒーローに 弱点など ありません

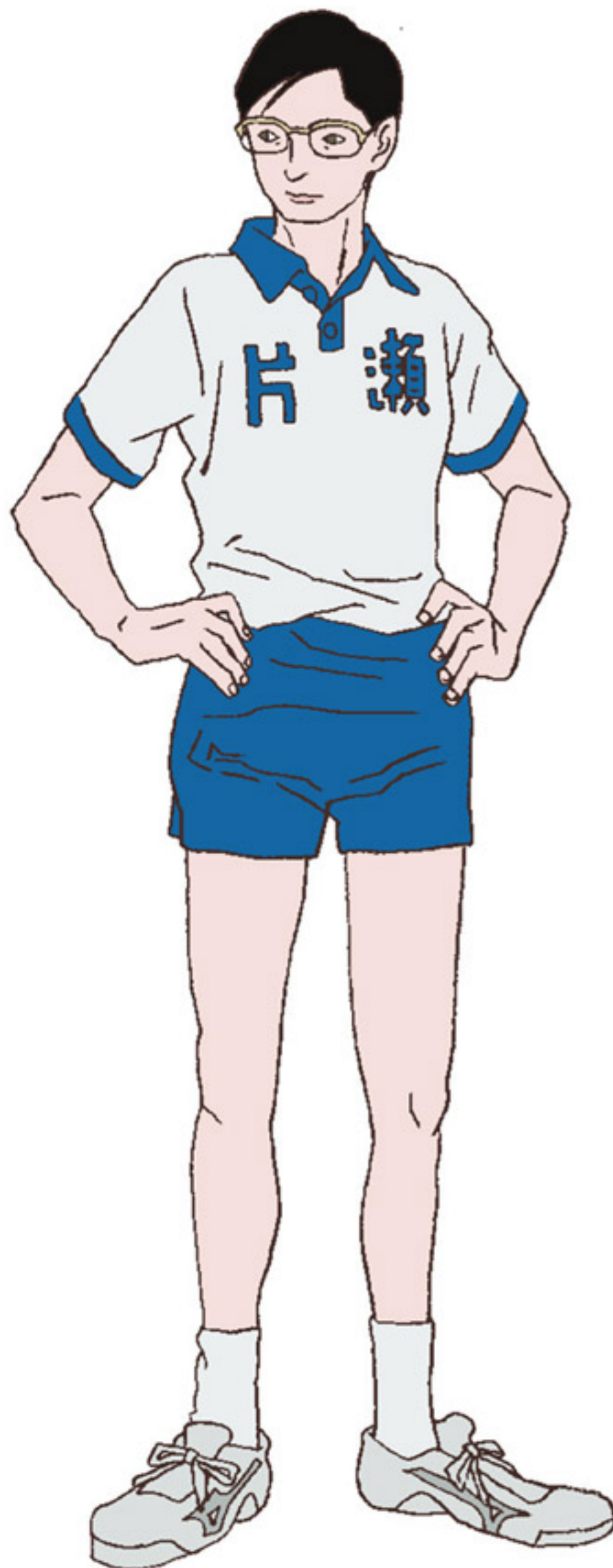
月本誠 ● スマイル

CV：内山昂輝

使用ラケット：右シェークハンド

戦型：カット主戦型

片瀬高校1年生。子どもの頃から笑わず、そのために虐めを受けたこともある。そんなスマイルを卓球に誘ったのがペコだった。顧問の小泉にその才能を見いだされ厳しいトレーニングを受けたことにより、それまでの勝敗にこだわらない姿勢から踏みだし、機械のように冷静で正確なプレーヤーとして頭角を現す。電車で移動中は携帯ゲームで遊んでいることが多い。時々、鼻歌を歌っている。



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

02

各話解説

> STORY

全11話に再構成された『ピンポン』。
舞台は現代に改められキャラクターの背景
は深められた。すべてを解き放つヒーローへ
の反発と憧れ。



第1話「風の音がジャマをしている」

脚本・絵コンテ: 湯浅政明

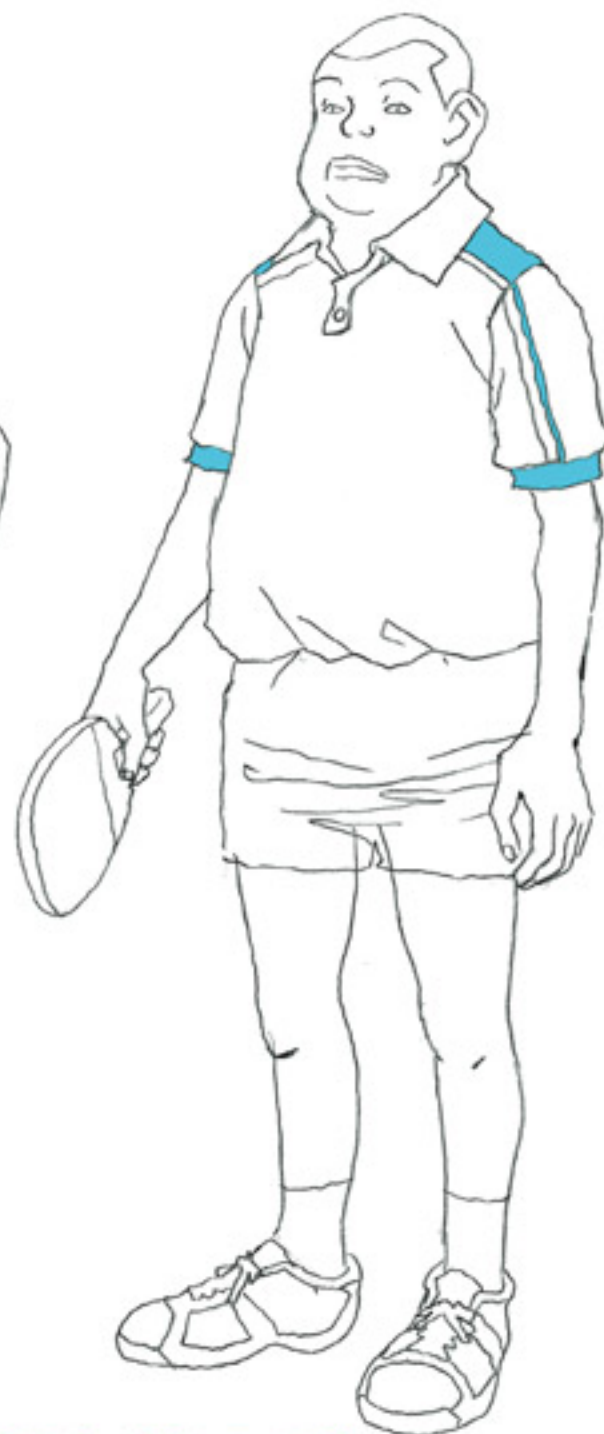
演出: 久保田雄大 作画監督: 伊東伸高



春。片瀬高校卓球部には、無愛想な月本誠(スマイル)と、町の卓球場で大学生をカモにする星野裕(ペコ)がいた。部活をさぼり中国から来た孔文革(チャイナ)に会いに辻堂学院へ行く二人。試合を挑んだペコだが、完封負けしてしまう。



山田(片瀬高校)



ドテチン(タムラの客)

CHECK POINT



▼原作の印象的なカットを使いつつも、テンポの良い卓球シーンが心地よい第1話。▼タムラで大学生を相手に、背中や股越しにボールを打って、翻弄するペコ。自由奔放なスタイルがうかがえる。▼そんなペコが、孔のパワーとテクニックの前では手も足も出ない。その影には、幼い頃からの血のにじむような努力があったことを思わせるインサート。▼新入生のエースはペコだと思われるなか、小泉やオババはスマイルに期待する。そんなスマイルとの出会いは、孔にも希望を与える。

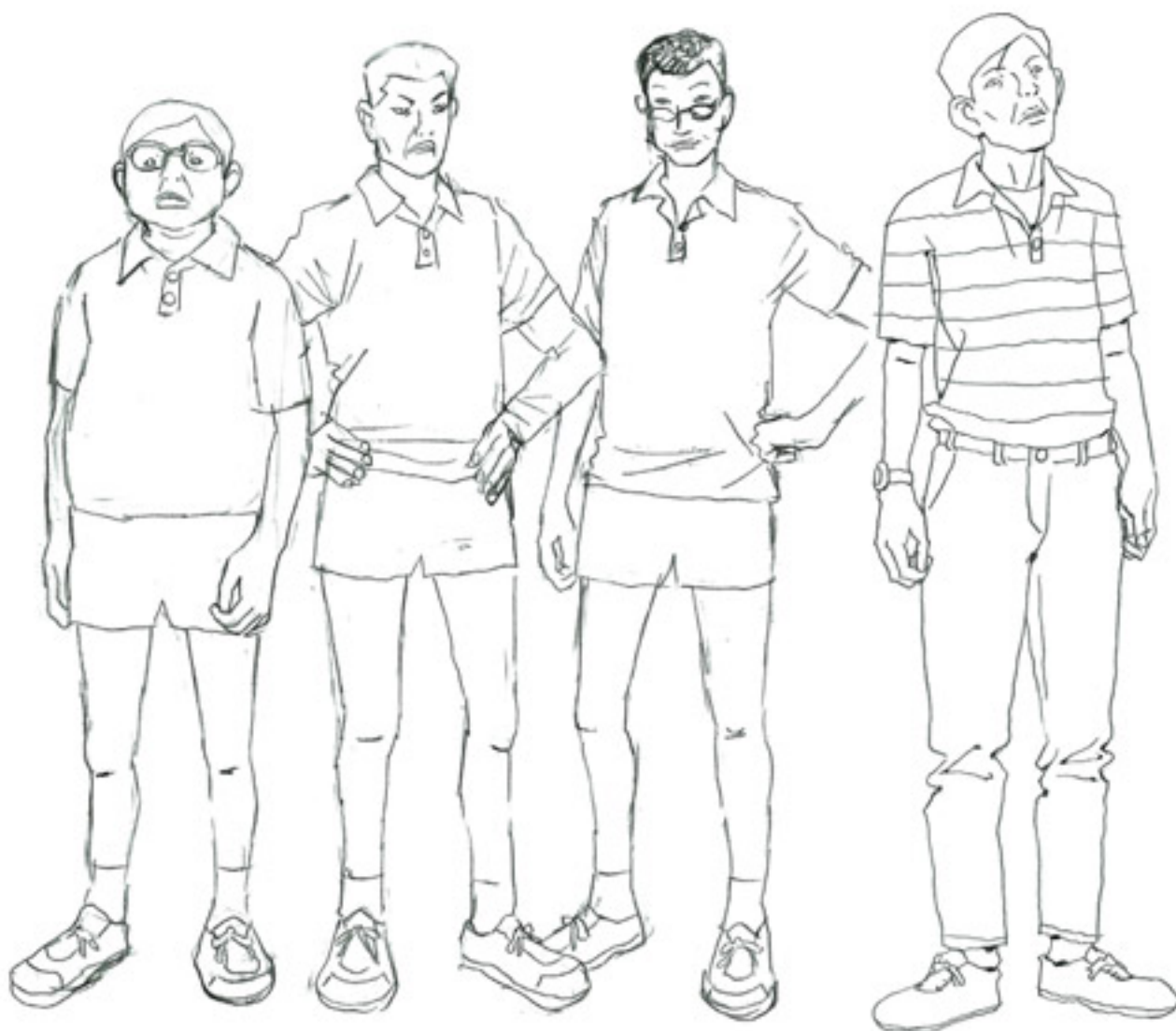
ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

第2話「スマイルはロボット」

脚本・絵コンテ：湯浅政明

演出：伊藤秀樹 作画監督：伊藤秀樹



郷田、木村、小枝（辻堂学院）

孔のコーチ



小泉から勝負への執念に欠けていると指摘されるスマイル。だが「楽しいだけでいい」と耳を貸さない。海王の風間も、スマイルに会いにくる。しびれを切らした小泉は、スマイルに勝負を挑む。負ければ、絶対服従だと。

CHECK POINT



▼小泉のしごきに嫌気がさし、練習を抜け出したスマイルは、ペコと2人練習着のまま江ノ島の名所を巡っている。トンビにバーガーを奪われる女性がおかしい。▼小泉に追いつめられたスマイルは「ヒーロー見参」と3回唱えて助けを求めている。だが「性能を見せてくれ」など小泉の挑発を聞くうち次第に変化していき、無気力から一転、ロボットのような残酷さが顔を出す（声にも冷たさが滲む）。▼ちなみに小泉の年齢は、原作より10歳上になっている。

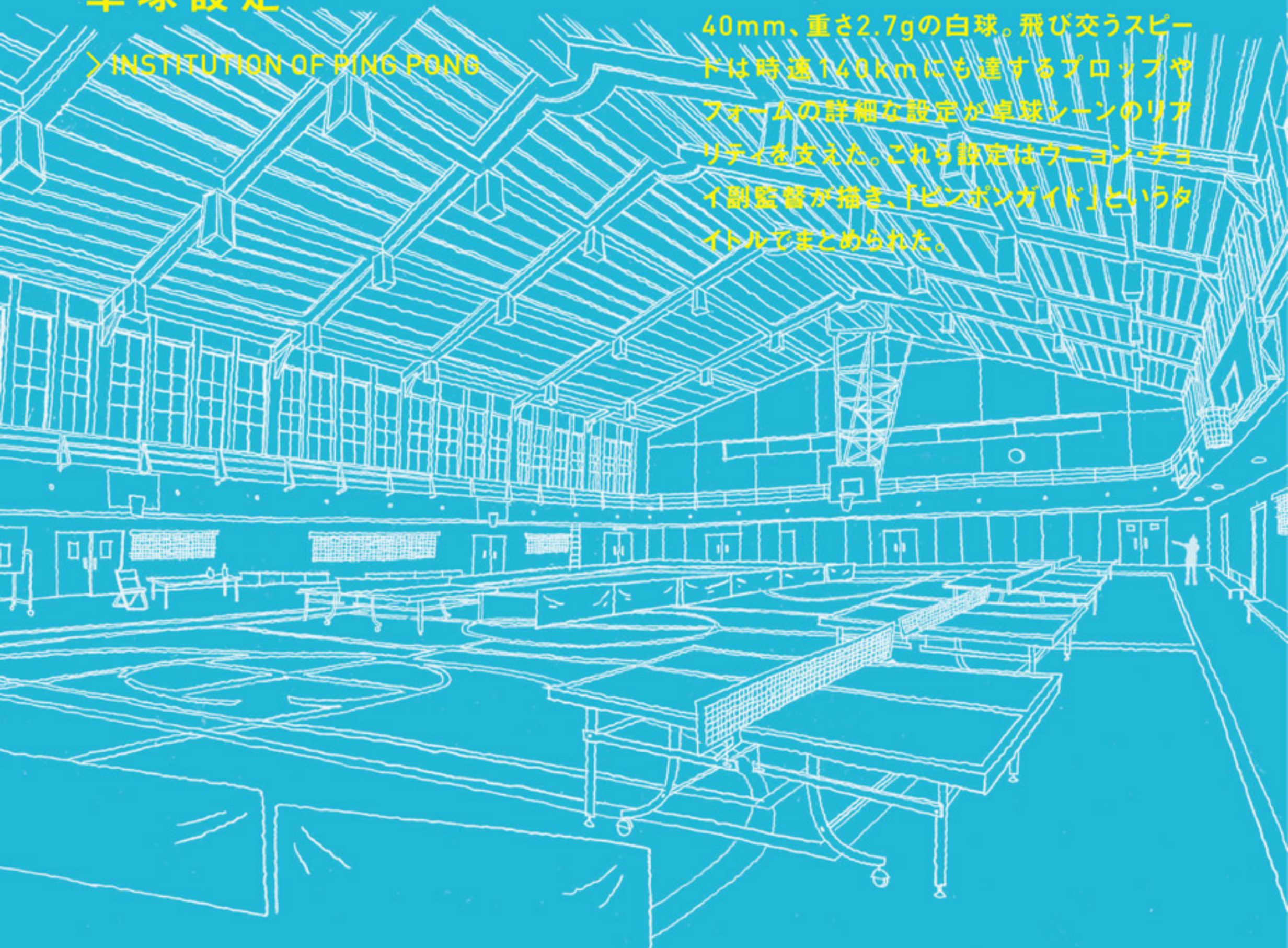
ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

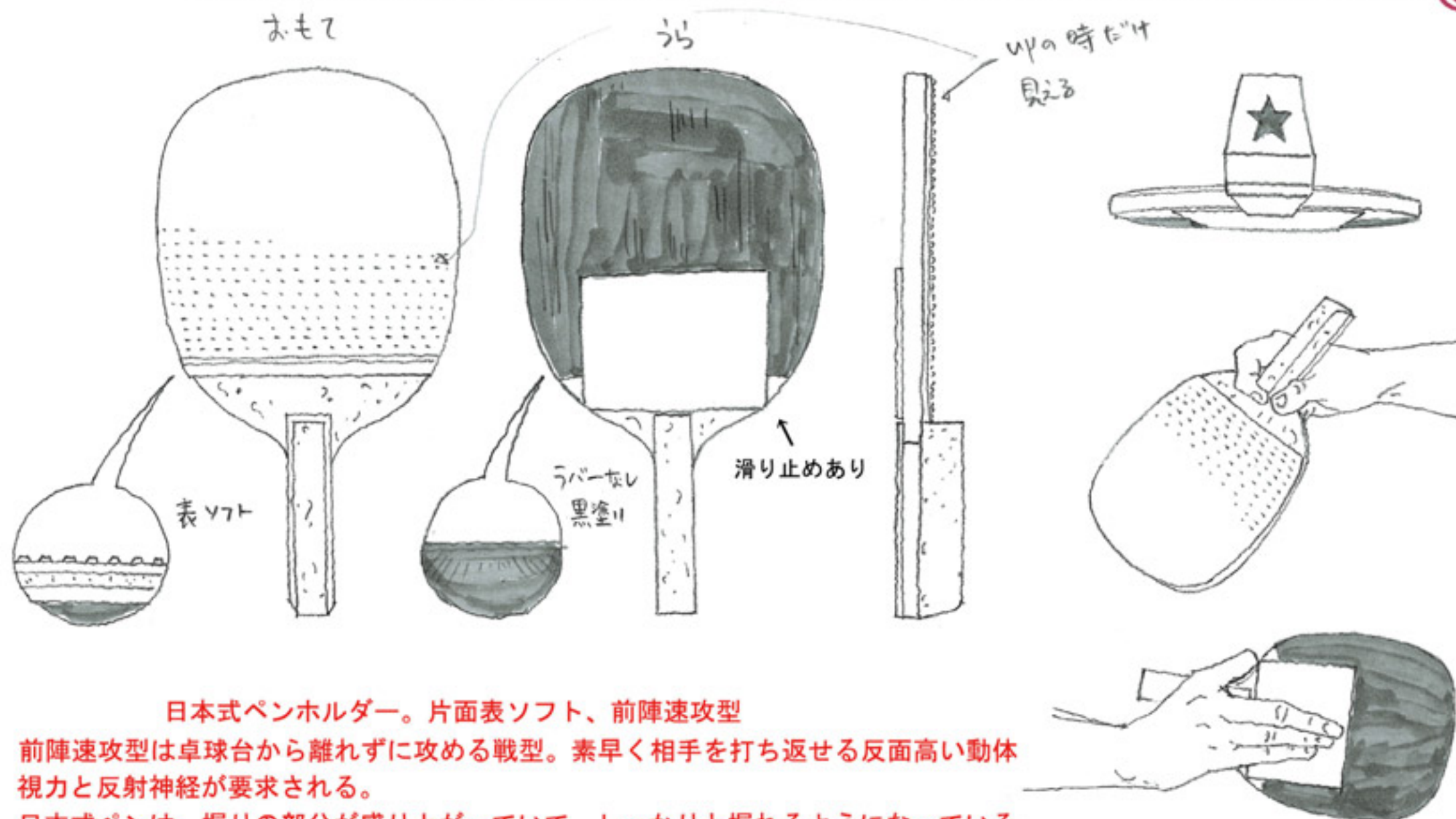
03

卓球設定

> INSTITUTION OF PING PONG

274cm×152.5cmの四角い戦場。直径40mm、重さ2.7gの白球。飛び交うスピードは時速140kmにも達するプロップやフォームの詳細な設定が卓球シーンのリアリティを支えた。これら設定はウニョン・チョイ副監督が描き、「ピンポンガイド」というタイトルでまとめられた。





日本式ペンホルダー。片面表ソフト、前陣速攻型

前陣速攻型は卓球台から離れずに攻める戦型。素早く相手を打ち返せる反面高い動体視力と反射神経が要求される。

日本式ペンは、握りの部分が盛り上がっていて、しっかりと握れるようになっている。基本的にラケットが軽いため、素早いラケット運びが可能。表ソフトラバーは最も瞬発力がある反面、回転性は弱く、後ろへ下がると球速が落ちやすいという欠点もあわせもつ。今このスタイルの戦型の選手はほとんどいない。

決定稿

ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

各キャラクターの戦型に合わせてラケットも細かく設定されている

ピンポン

PA_002_001

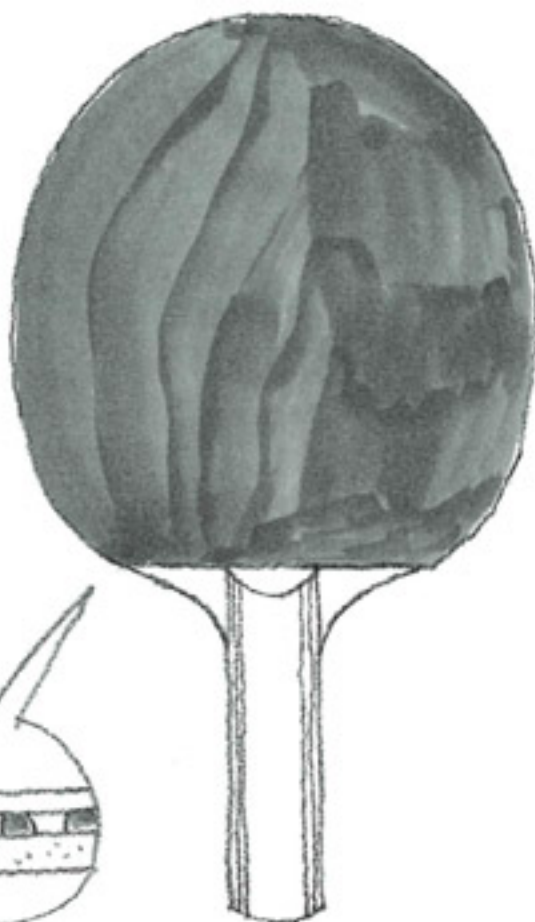
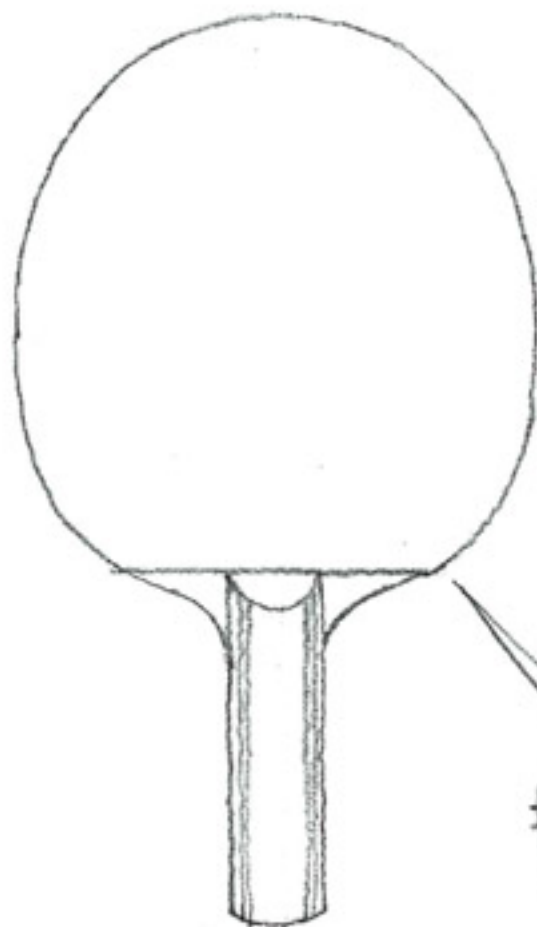
スマイルのラケット (シェーク) ①

2013. 12. 17

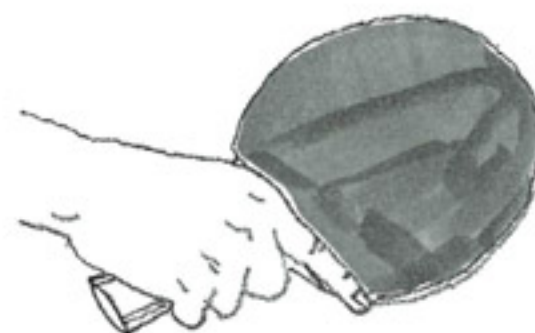


おもて

うら



両面、裏ソフトラバー



右シェーク、両面裏ソフト、カット主戦型

カット型は卓球台からやや離れ、中・後陣からカットを主として戦います。

ドライブに比べてボールのスピードが非常に落ちるため、相手がミスするのを待つ、守って点を取る戦型とされています。

攻撃型が主流の今、この戦型を使用している選手は多くはありません。

決定稿

ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

ピンポン

PG_001_002

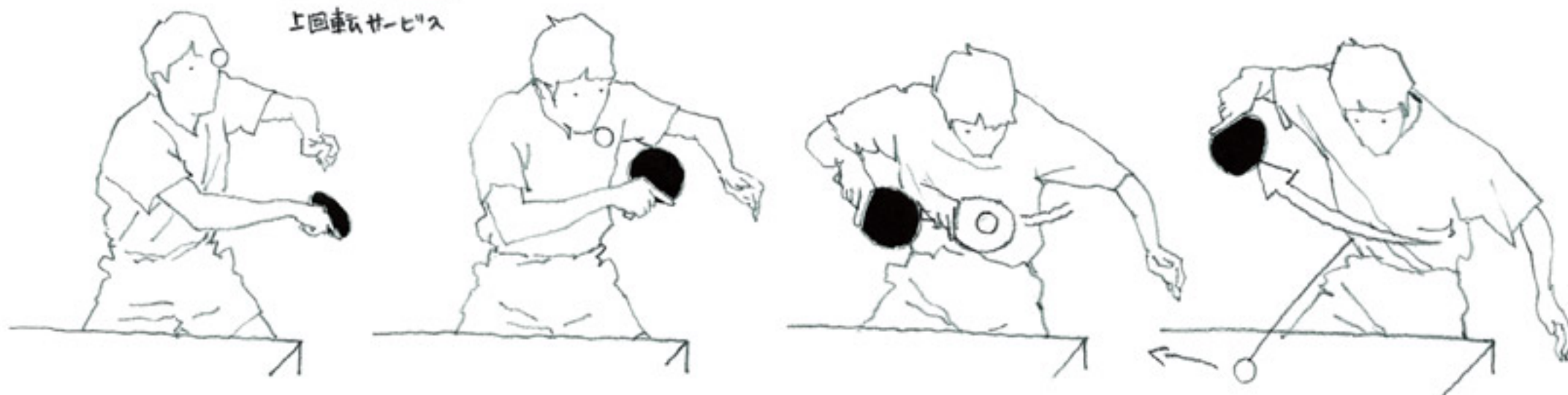
シェークハンド_サービス

2014. 2. 12



シェーク・バックサービス

上回転サービス



シェーク・フォアサービス

下回転サービス



ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

ピンポン

PG_001_004

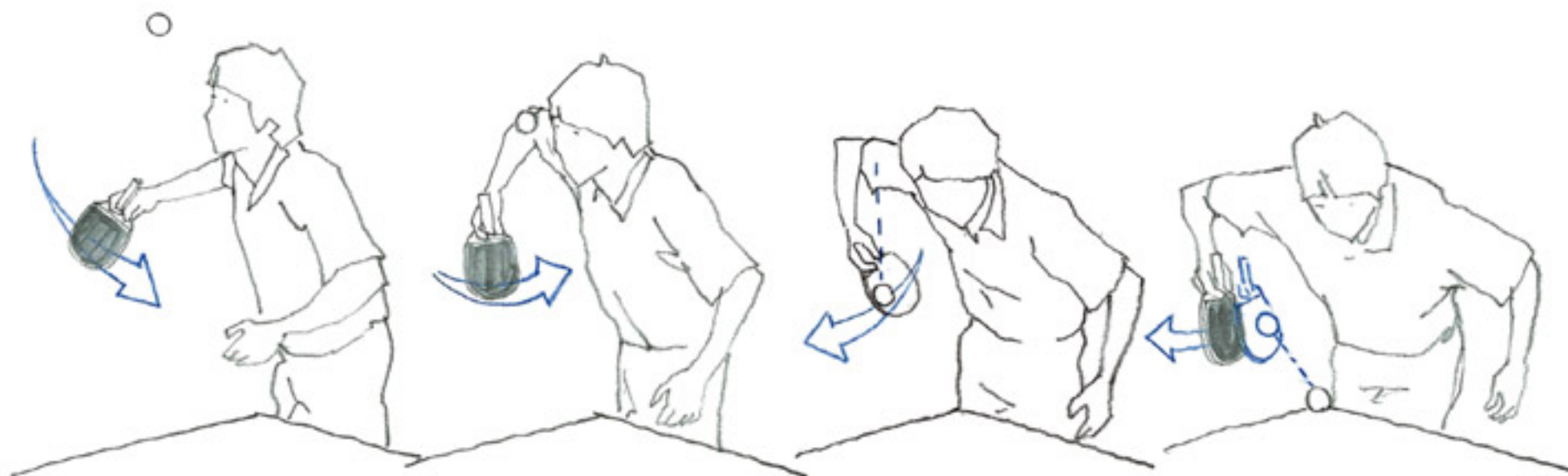
ペンホルダー_サービス

2014. 2. 12



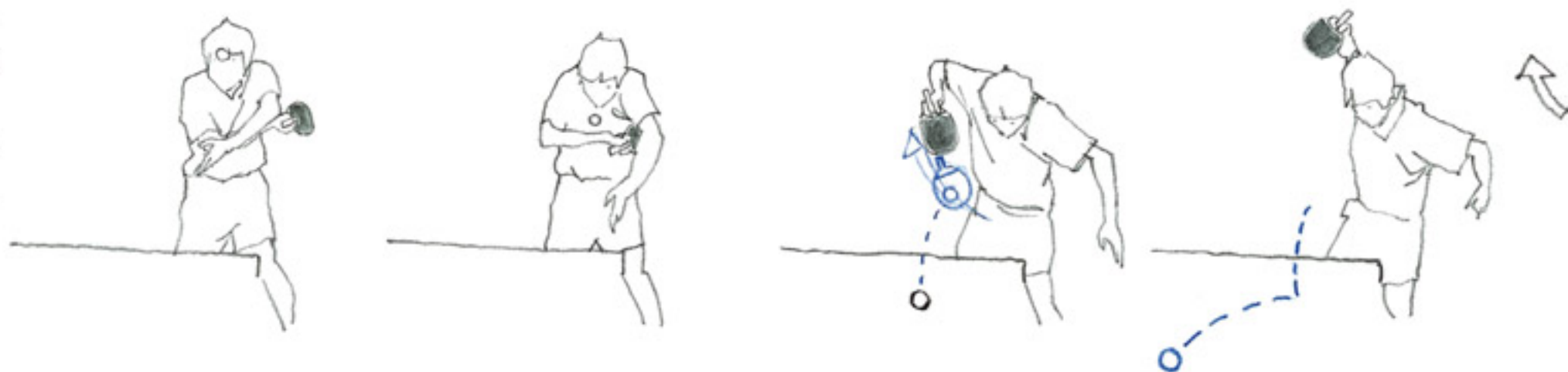
ペン・フォアサービス

横回転サービス



ペン・バックサービス

上回転サービス



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

04

キャラクター設定 美術ボード

> CHARACTER MODEL &
ARTS WORKS

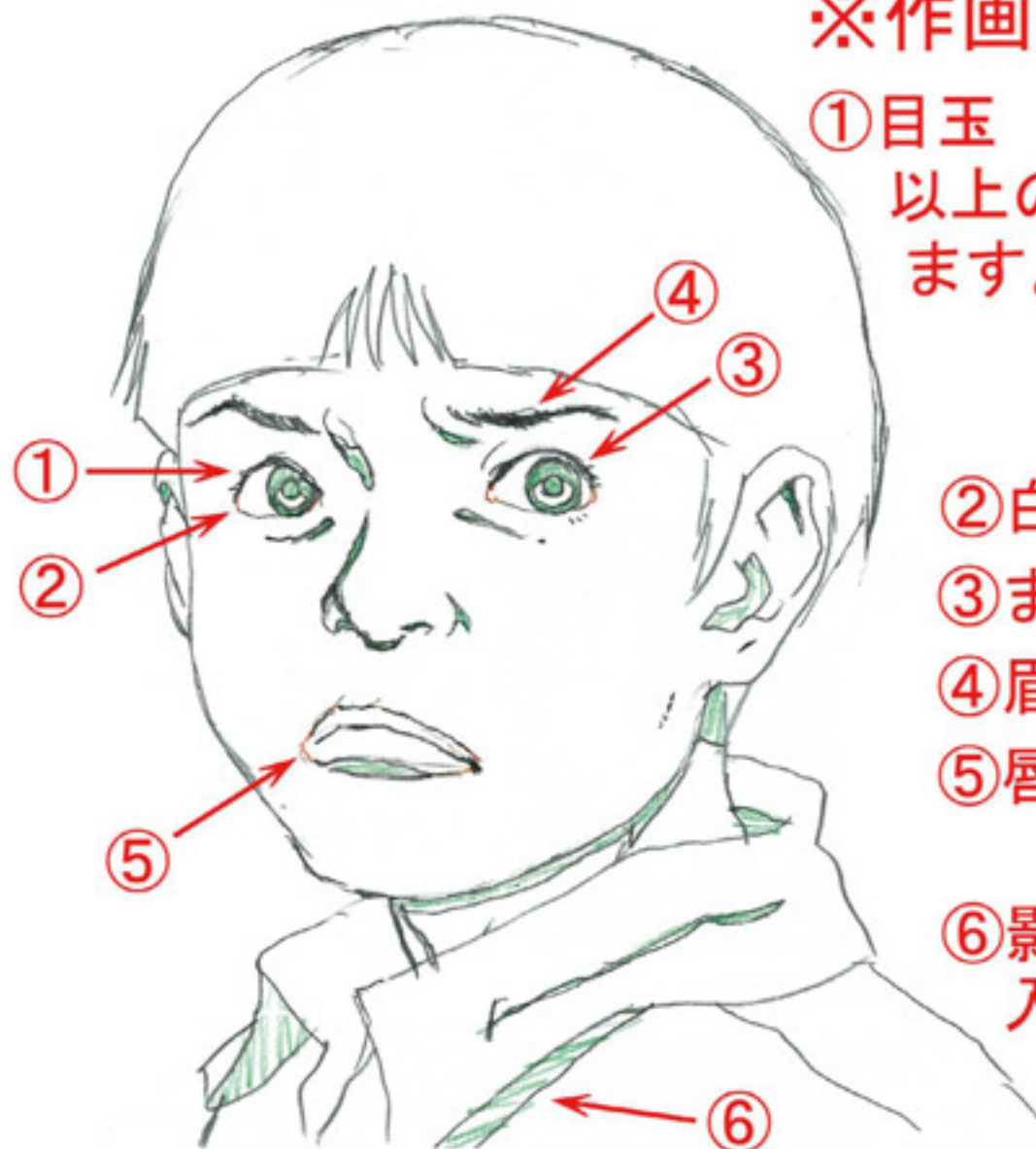
ドラマを担うキャラクターと画面の空気感を
支える美術。この二つが一体となって
『ピンポン』の世界が動き始める。



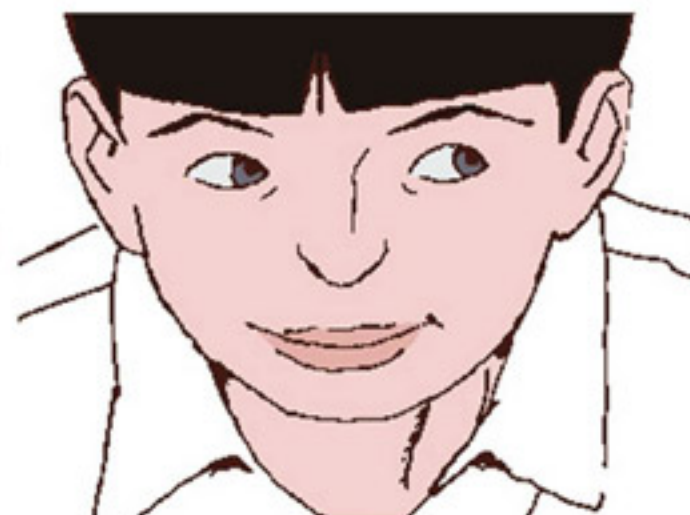
第1話の制作スタート後に作られた注意事項。『ピンポン』特有の原画を描く際のポイントがまとめられている

※本作品では、原作漫画の線を再現したいと思います。
キャラクター設定に合わせてよれた線で原画作業をお願いします。

※作画注意



①目玉 バストサイズ
以上の時は瞳孔入ります。



- ②白目 色トレス入ります。
- ③まぶた 線は太めでお願い致します。
- ④眉毛 実線＋塗り＋タッチになります。
- ⑤唇 バストサイズ以上は塗りがあります。
実線＋色トレスで繋げて下さい。
- ⑥影無し作品ですがB Lのポイントに影が入ります。

決定稿

ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

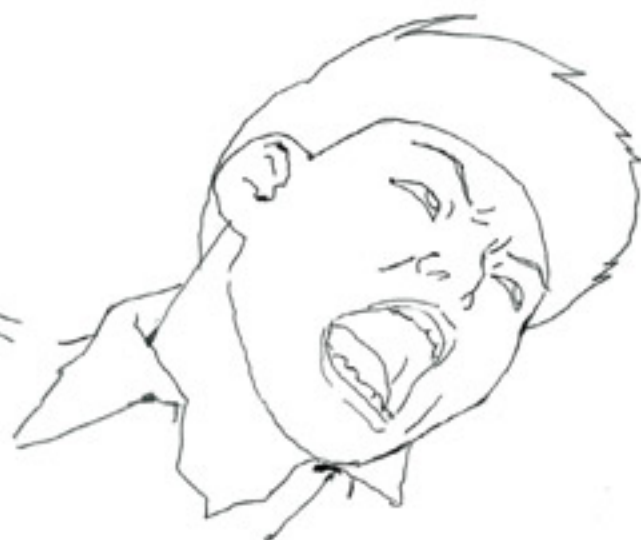
「これが一番最初に描いた絵です。オババとドラゴンで普通に並べると完全に別世界の人間になってしまうので、こうして並べてまず全体のバランスを見てみようと思って描きました」(伊東)

キャラクター対比図



「ポイントは髪型ですね。眉と前髪のスペースがポイントで、開きすぎると似て見えなくなってしまうんですよ。後半になるとほとんど眉毛が隠れるくらいの髪型になってます」(伊東)

※バストサイズ以上の時は目に瞳孔入ります。



※ 唇は基本有(ロング時は省略可)
バストサイズ以上は
又にも有(実録+10㊦)

決定稿

ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

「こちらのポイントはメガネです。メガネキャラは、眉毛がフレームで隠れるので、基本全員眉毛なしでデザインしています。あとスマイルは5話で散髪するので、髪の毛がなびくほどないのも難しいところです」(伊東)

月本誠(スマイル)・表情

※バストサイズ以上は目に瞳孔入ります。



※#5以降、新メガネ別紙に設定あり。



決定稿

ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

美術ボード

美術ボードは、そのシーンの色見本として美術監督が描く絵。背景スタッフは美術ボードを見て個別の背景を完成させる。



淡い色合いで彩られたタムラの全景

ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES



スマイルの回想に登場する小学校の教室。子ども時代の回想は、
夕日のようなオレンジや、黄金色などで描かれていることが多い

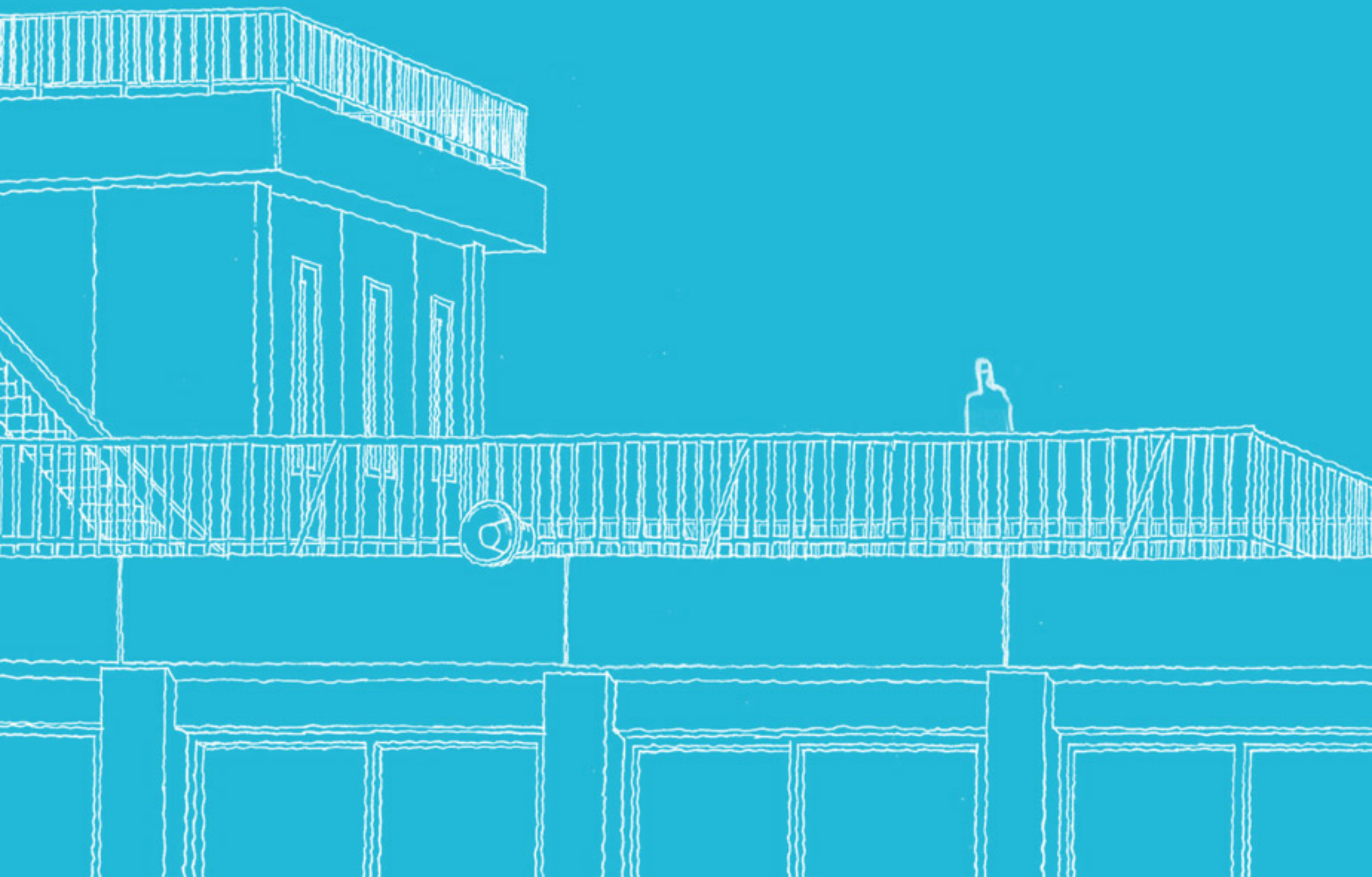
ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

05

オープニング & エンディング

> OPENING & ENDING

作品の顔のオープニング。物語の余韻を受け止めるエンディング。作品の一部でありながら、同時に一つの確固たる世界を持った映像。



ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

OPENING (オープニング・テーマ / 「唯一人」爆弾ジョニー)



Scene 1 Cut 8 原画:大平晋也

ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

②



⑥
IK



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES



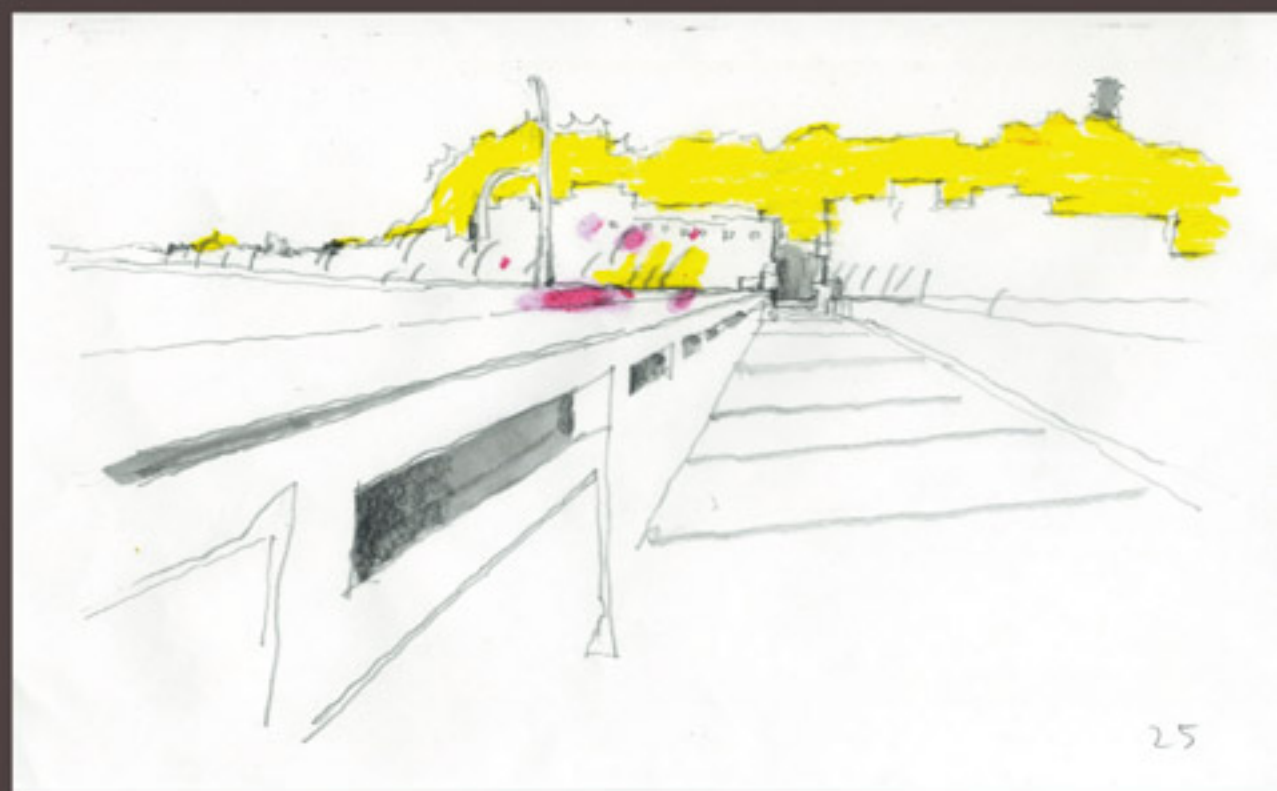
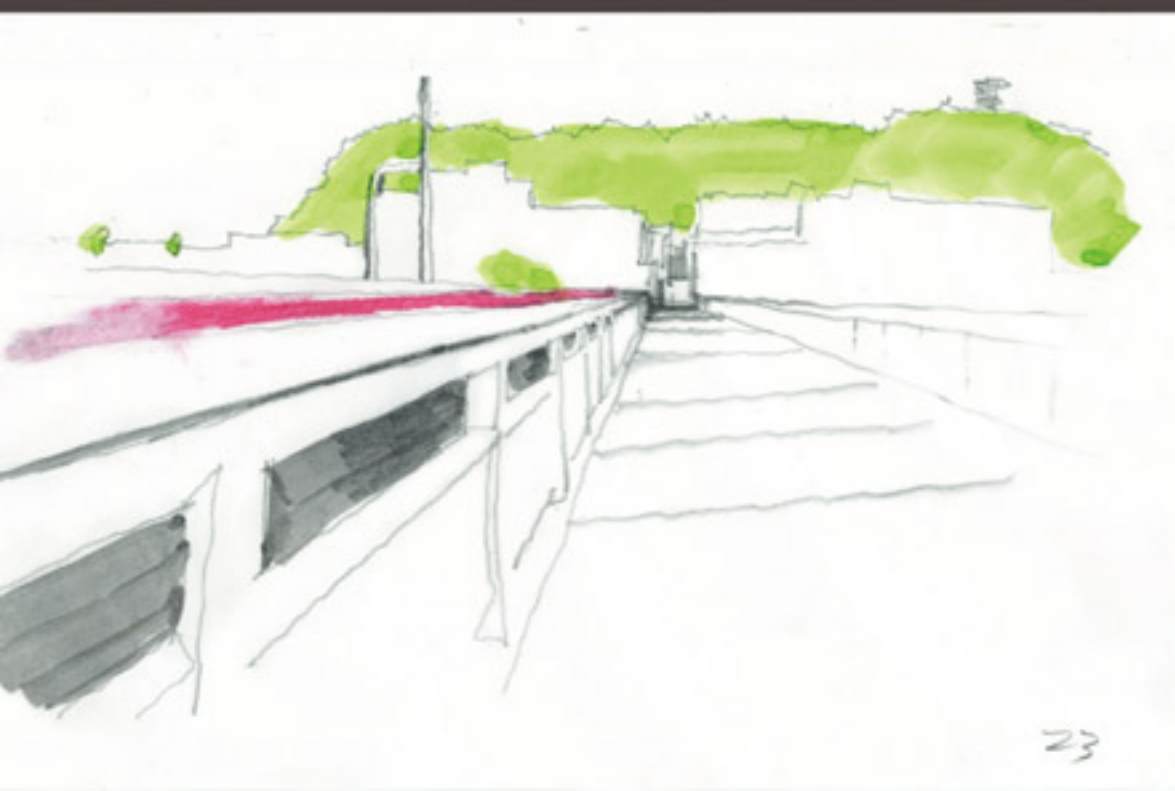
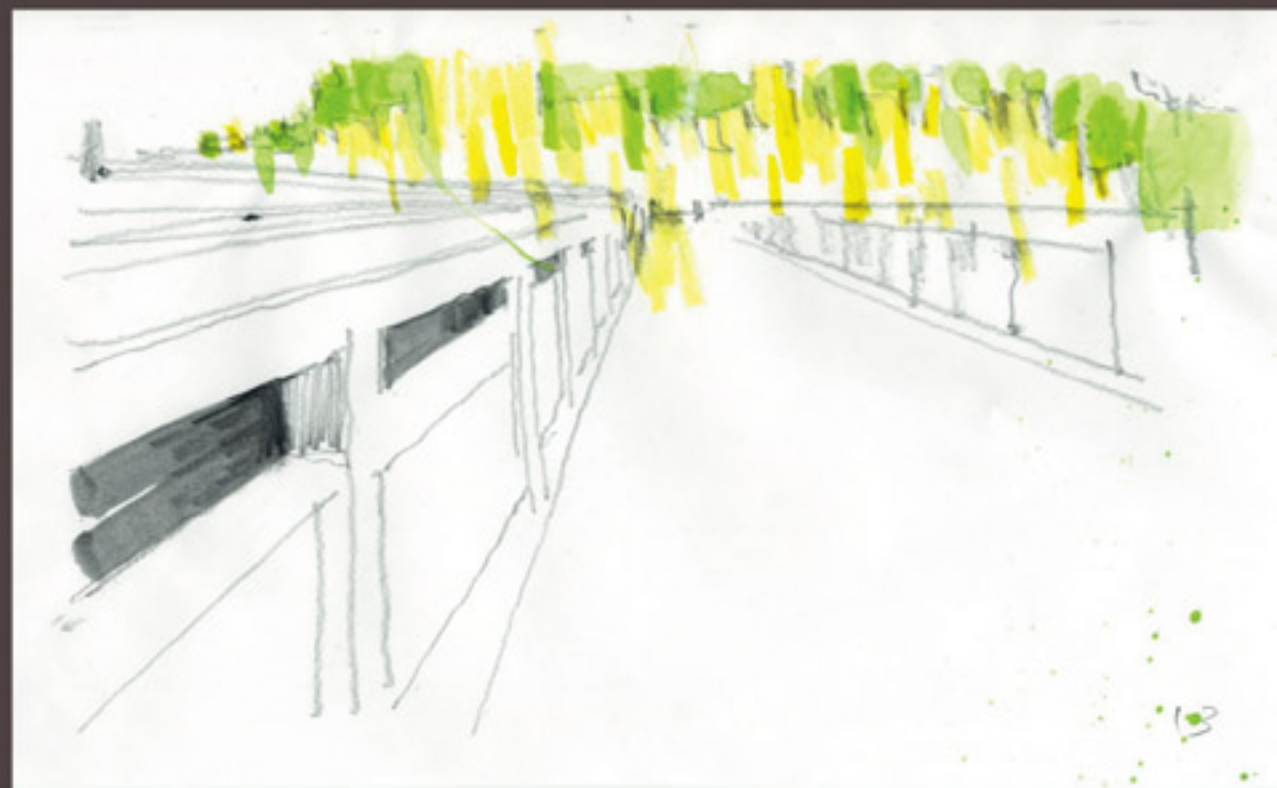
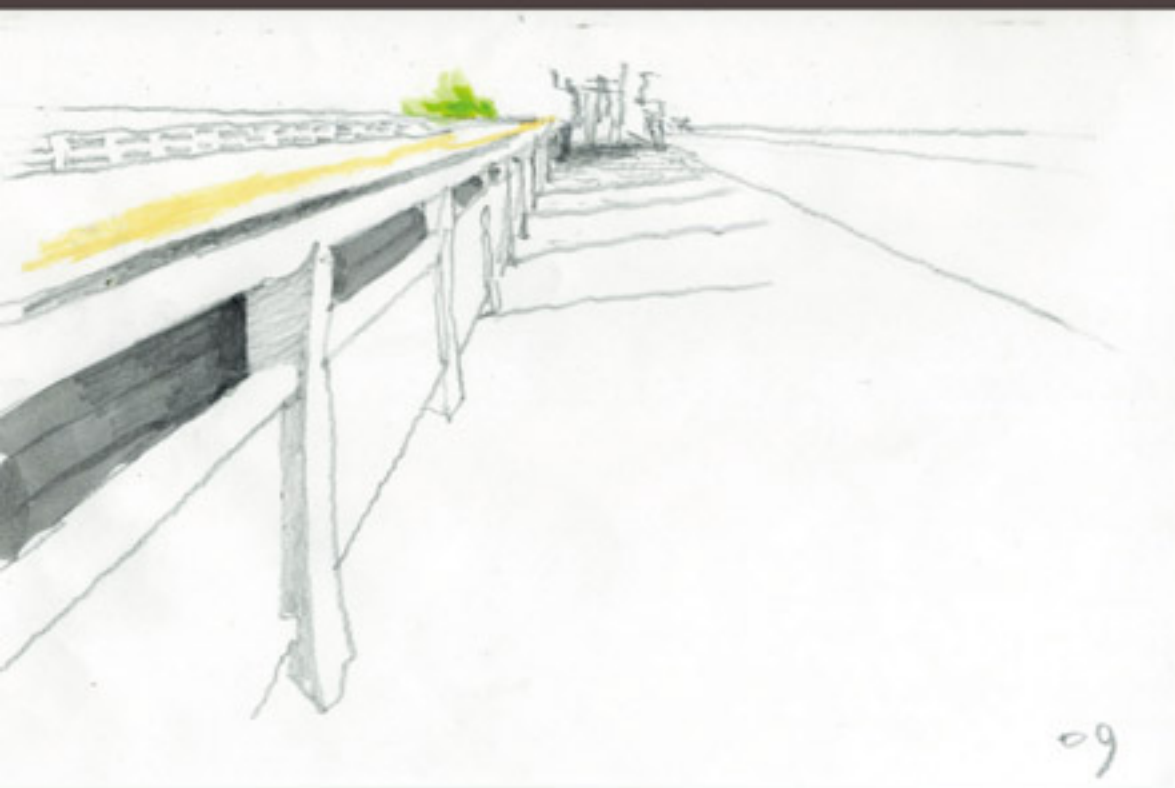
ピンポン COMPLETE BOX

8.27 IN STORES

ENDING (エンディング・テーマ／「僕らについて」メレンゲ)



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES



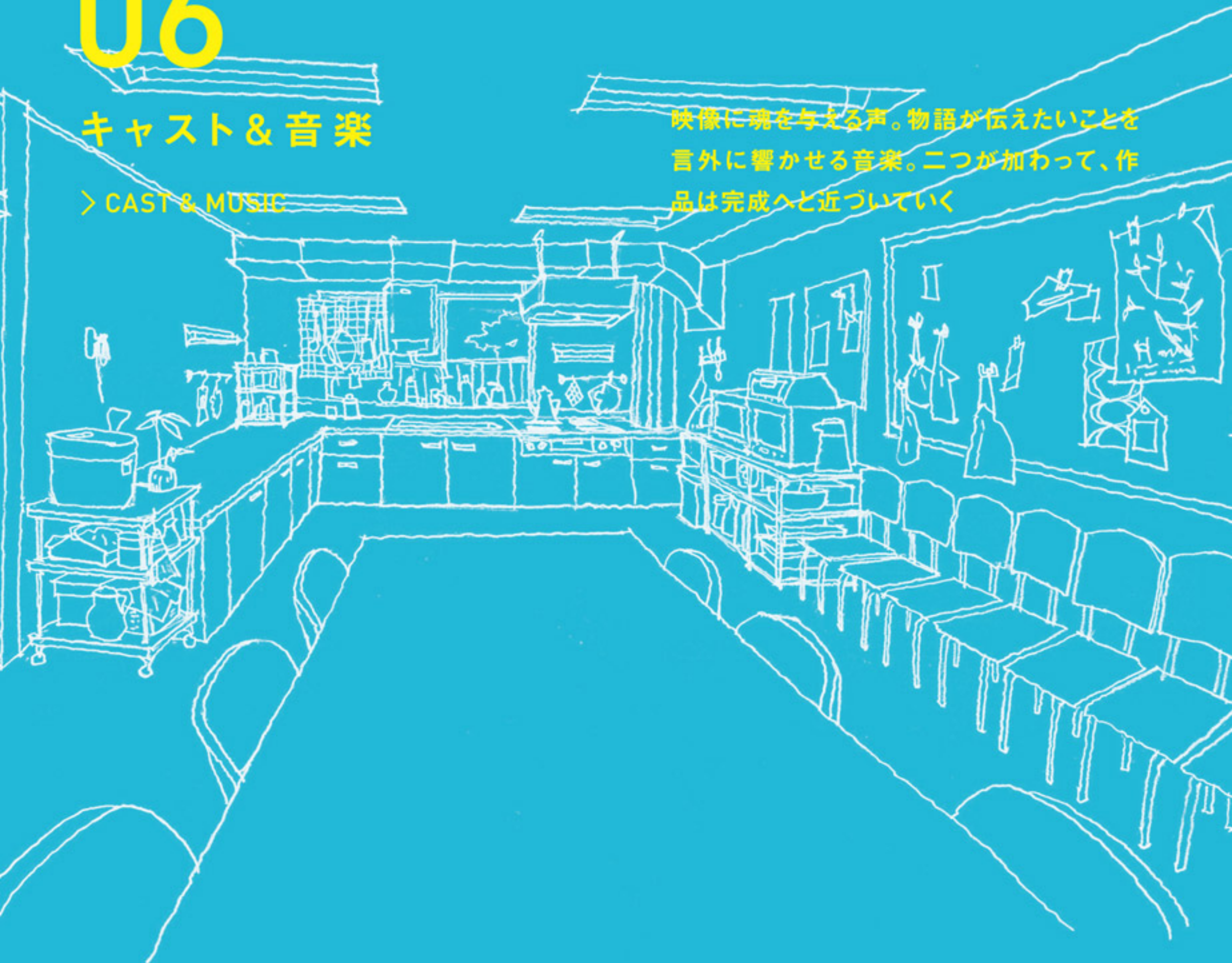
ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

06

キャスト & 音楽

> CAST & MUSIC

映像に魂を与える声。物語が伝えたいことを
言外に響かせる音楽。二つが加わって、作
品は完成へと近づいていく



星野裕／ペコ 役

片山 福十郎



2歳から歌舞伎囃子の手解きを受け、18歳で邦楽囃子方名取に。「住田福十郎」の名で邦楽の活動を行う一方、俳優、声優としての活動をスタート。初のオーディションでペコ役に大抜擢された。

ペコの、子供のままでいるカッコよさが好きなんです

—— 「ピンポン」で初めてアニメ声優のお仕事をされたんですよね。

片山 はい。アニメジャパンのイベントから始まって、ニコ生のイベントもあって、そしてアフレコが始まって。たくさん思い出があるけど、あっという間でした。

—— ペコはブレないキャラクターなので、逆に演じにくかったのでは？

片山 最初はそうでした。どう言おう、どういう声でやろう、って思ってたけど、途中からなにも考えなくなりましたね。いい意味でペコになりきっていたんだと思います。映像を見て声を出すとそのままペコになれてました。

—— ペコを演じていく中で気づかされたことはありましたか。

片山 ペコはいい意味で、大人子供。『ピンポン』は子供の頃の気持ちっていうのが大きなテーマのひとつだと思っているし、それを思い出させてくれる作品ですよね。その中心にいるのがペコなんだと思います。みんながペコに負けることによって、ペコがヒーローになる。ヒーローっぽくはないけど、みんなが望むものを持ってる。ペコって主人公であり、全員を引き立てる影の役目でもあるんじゃないかな。全員の影役だから主人公なのかもって思

うようになりましたね。

—— 全11話の中で、特に苦労したシーンがありますか。

片山 まずは第1話、タムラでのドテチンとの試合ですね。試合中の息とかも入れなきゃいけないんだって現場で気づいて、あせりました(笑)。次が第5話、インハイでのアクマとの試合。アクマに追い込まれてもペコでいなきゃいけないのに、僕がペコでいられなくなっちゃった。ここで苦労したからか、その後はもう自然とペコになってやれるようになりましたね。第2話の「この星の一等賞になりたいの俺は」っていう印象的なセリフは、自分的には苦戦したんですけど、すぐOKもらえたのが意外でした。

—— 「この星の一等賞」など、ペコはちょっと浮世離れしたセリフが多いですね。

片山 最初は慣れない部分が多かったですけど、すぐになじんでくれました。「～だかんよ」っていうのも、最初は言い方を考えたけど、今は普通に出来るようになりましたよ。

—— ペコは各キャラクターと関係性が深いので、どう考えて演じていたか教えてください。まずはスマイル。

片山 スマイルについて、僕自身は考えちゃうんですけど、ペコは考えてないと思うんです。途中でスマイルを意識しすぎて離れた

こともあったけど、心の奥深くでは理解できてる。ペコの心からスマイルがいなくなることはない。ライバルでもない、水と魚のような関係。だから最後の決勝戦での「ビバ!」も子供のときと同じように、「よしやろうぜ」という感覚で言ったんだと思います。

—— 彼に負けたことがペコの転機になった、アクマについては。

片山 アクマにインハイで負けて、ペコは相当ショックだったと思うんです。それまでさんざん偉そうなことを言ってきたし。でもアクマはペコに大人の勝ち方をして、成長してくれよっていう気持ちもこめてペコを馬鹿にした。あれでペコは卓球から少し離れてしまったけど、また転機になったのが、海に入っていったアクマに助けられたこと。僕の大好きな名場面(笑)。アクマに対してのイライラはもうなくて、タムラで卓球やってた幼なじみとして会話してたんじゃないかな。あの3人を見てると幼なじみっていいなあって思えますよね。その3人に相対するキャラクターが、ドラゴンとチャイナだと思います。大人なふたり。

—— ドラゴンとチャイナは背負っているものが大きいですね。

片山 親の存在が大きかったりと、子供の頃からしがらみのある環境にいるふたりですね。ペコが第1話で辻堂に行ってチャイナにスコルクで負けたときも、アクマに負けたときと同じようにただ悔しくて泣いたんだと思います。チャイナに対する特別な想いはない。常勝無敗の俺様が1点も取れず、なにもできずに惨めに負けたって。でもあの負けがなかったら、ペコは悔しさを知ることなかったし、挫折も努力も知らないままだったかもしれない。ひとつ強くなったペコはいなかったかもしれないですね。

—— 物語はペコがドラゴン、スマイルと連続で勝つところがクライマックスです。ドラゴンをペコはどう見ていたと思いますか。

片山 ペコはあの試合中にドラゴンの生き方を察したと思うんです。全部はわからないにしても、一打一打にドラゴンの過去や

家庭への想いとかが詰まっていた、それをペコが受け取った。そんな試合をしたんじゃないかな。「おまえの生き方がカッコいいじゃん」って受け止めて、ドラゴンのことも救った。ドラゴンという大きさと優しさと人間性。ドラゴンの奥深くにある彼が卓球をしている理由を、ペコは知ることができたんだと思います。

—— ペコにとってオババの存在も欠かせません。野沢雅子さんと一緒にお芝居をするのはいかがでしたか。

片山 もちろん最初は野沢さんに会えた感動があったんですけど、僕がペコをやっているときは、野沢さんではなくオババだったとしか言いようがないんですよ。不思議でした。野沢さん、すごかったです。

—— ペコを演じきったこと、今素直にどう感じていますか。

片山 本当に楽しかったです。いろんな意味でやりきったので悔いはありません。きっと今やり直しても、同じようにはできないと思う。思えばペコが成長していくのに合わせて、僕も技術を覚えていきました。第1話は下手だったかもしれないけど、だからこそつかみどころのないペコを表現できたかなって思うし。それととにかく、ペコが愛しくてしょうがなくて。だからずっと楽しかったんですね。

—— ペコが本当に大好きなんですね。

片山 ペコの、子供のままでいるカッコよさが好きなんです。ペコを演じたことで僕自身、自分の中であきらめてしまった部分や賢く生きるようになってしまった部分を見つめ直す機会が増えました。同じように感じた人もいるんじゃないかなって思います。

—— 最後に『ピンポン』ファンに向けてメッセージをお願いします。

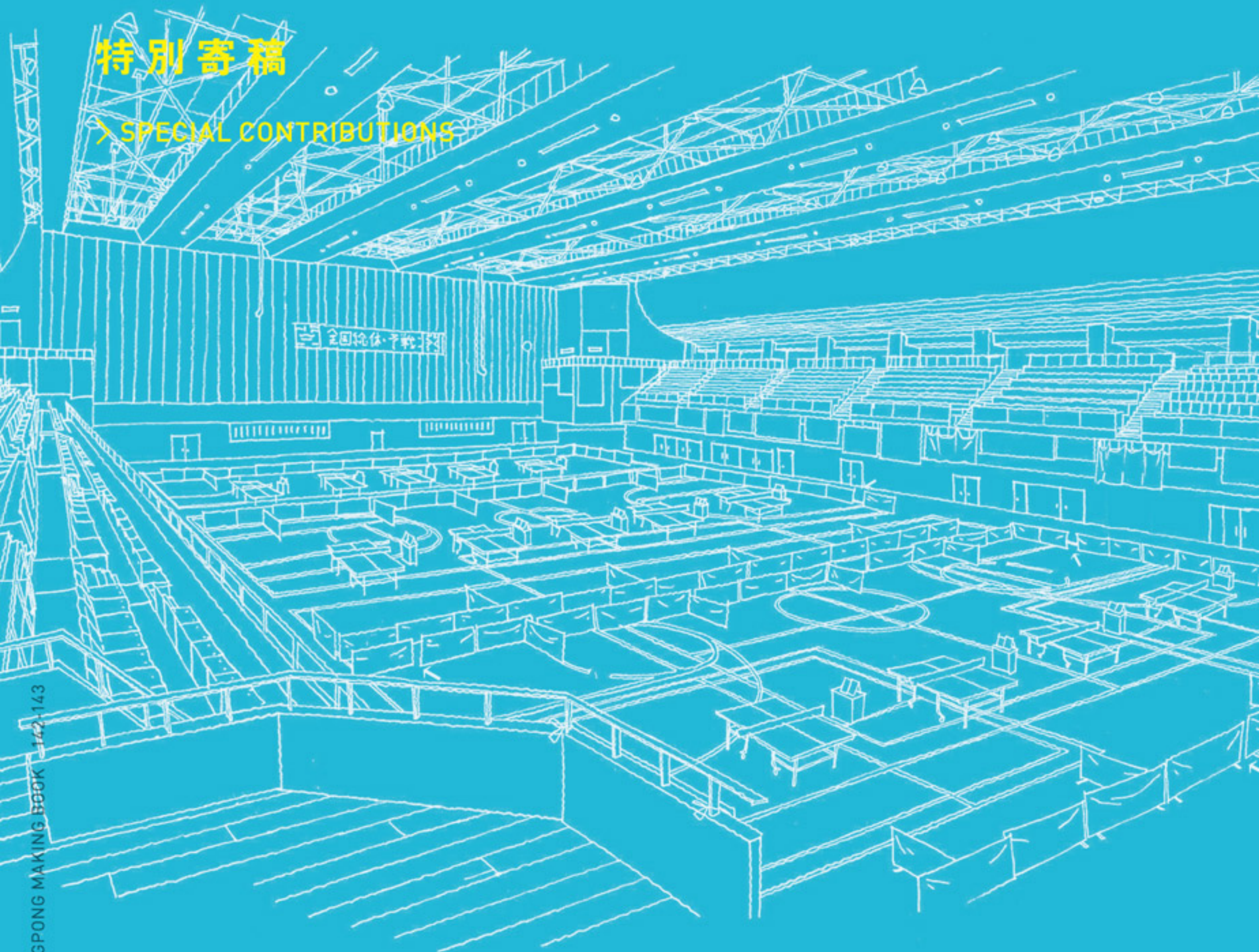
片山 中毒性があるアニメだと思うので、観るたびに違う発見があると思います。毎年放映してもいいんじゃないかって思えるぐらいの、素晴らしい作品。みなさんにとっても大切な作品になっていたら嬉しいですね。

ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

07

特別寄稿

> SPECIAL CONTRIBUTIONS



ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES

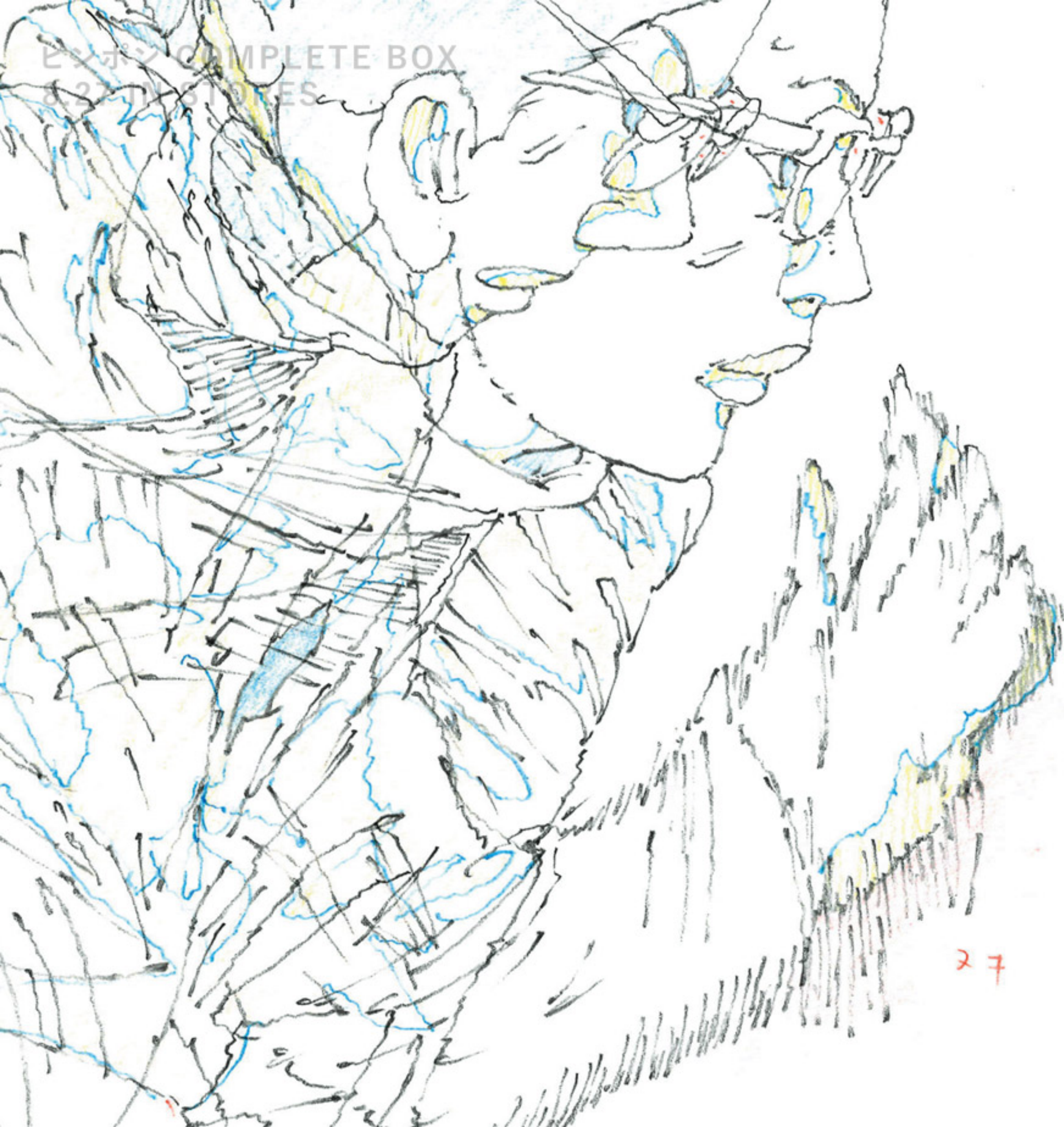
湯浅政明

★ あ り が と う ★



おつかれさまでした 2014. 6. 19

ピンポン COMPLETE BOX
8.27 IN STORES



PINGPONG MAKING BOOK

アニメーションメイキングブック

アニメーションメイキングブックの試し読み、いかがでしたでしょうか？

コンテンツの一部を抜粋いたしました。

メインスタッフ・メインキャストのインタビューを網羅した、

ここでしか見れない貴重なメイキングブック。

続きは、2014年8月27日(水) 発売のCOMPLETE BOXにてお楽しみください！